

## 議事概要

件名	第1回ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略会議	作成課	企画部 政策企画課
日時	平成29年9月4日（月） 13時30分～15時		
場所	市役所東別館9階 特別中会議室		
出席者	ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略会議委員 13名		
市出席者	事務局： 企画財政局長、企画部長、政策企画課長		
会次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱式</li> <li>3 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員紹介</li> <li>(2) 委員長及び副委員長選出</li> <li>(3) ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略策定基本方針等について</li> <li>(4) 基礎調査事項の中間報告</li> <li>(5) 意見交換</li> <li>(6) その他</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>		
主な内容等	<p>【委員長・副委員長選出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員長： 日本貿易振興機構(ジェトロ)鹿児島貿易情報センター所長 永盛 明洋 氏</li> <li>・ 副委員長： 鹿児島大学法文学部 教授 山本一哉 氏</li> </ul> <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジアにおける鹿児島の認知度が低い。中国の大学で日本を学ぶ学生でもあまり知られていない。鹿児島の認知度を高めることが重要。</li> <li>・ 人口減少社会において、経済の維持・発展を図るためには、交流人口の確保が重要。</li> <li>・ 航空路線の安定運航には双方向で乗客を確保することが大切。</li> <li>・ 人口減少社会において、企業も海外に目を向けなければいけない。ここ2・3年、輸出ビジネスに携わる方が増えている。</li> <li>・ 農産物の生産は県内で、市は観光、プロモーション、ブランディングで力を発揮することで県全体の浮揚につなげたい。</li> <li>・ 戦略が何を指すのか、最終的には雇用であると考える。</li> <li>・ 鹿児島大学には300人ほどの留学生がおり、大部分がアジアである。留学生が関わり、協力してもらえるような戦略を期待。</li> <li>・ 少子高齢化の中で、アジアの中の鹿児島が発展していくためには、インバウンド観光や国内の人材活用だけでは不可能。外国人の定住、コミュニティの形成が重要。</li> <li>・ 鹿児島ではアジアが日常なんだという「アジアの日常化」、「鹿児島の延長としてのアジア」という視点が重要である。</li> <li>・ 鹿児島を、自分の身の回りに国際交流があるまちにしていきたい。</li> <li>・ 中国では、世界中に若者が進出し、ネットワークを作っている。鹿児島の学生は、中国や韓国も知らず、内向的。鹿児島の若者がもっとアジアを知ることが必要。</li> <li>・ インバウンド、アウトバウンドとも、一つの市だけで進められるものではない。鹿児島市、周辺市町村、業界団体等、いかに連携ができるかがカギ。</li> <li>・ 市や県の会議体だと単年度とか、3～5年で終わってしまうことが多い。戦略の効果が継続的に発揮され、アジアとのつながりが深まっていくことを期待する。</li> </ul>		